

大河川の洪水ハザードマップをリニューアル

水害から身を守るために

近年、局地的な大雨や度重なる台風の上陸などによる被害が、全国各地で発生しています。

特に大きな河川では、洪水が発生した際に広範囲の浸水被害が想定されます。そのため、河川から離れた地域にいる方も、日頃から水害を想定して、どう行動すべきかを考えておく必要があります。

そこで市は、平成21年に作成した大河川の洪水ハザードマップをリニューアルしました。

従来は、地域ごとにA1版の大きな地図で作成していましたが、より活用しやすいよう、情報の見直しを行い、より見やすく保管しやすいよう、A4版の冊子に変更しました。このハザードマップには、100から

150年に一度の大雨を想定した浸水の区域や避難所の位置など、被害を抑えるために知ってほしい情報を掲載しています。

3月に配布した、中小河川洪水ハザードマップと併せて活用してください。

洪水ハザードマップ 届いたら

洪水ハザードマップは、11月下旬から12月上旬に届くように配布しています。

中小河川洪水ハザードマップと併せて、家族みんなで避難所や避難経路を確認したり、災害が起きた時の連絡方法を確認したりして、いざというときに備えましょう。

なお、12月15日(月)を過ぎても届かない方は、ご連絡ください。

問合せ 市防災対策室

洪水ハザードマップ 活用にあたって

洪水ハザードマップで想定している浸水の区域は、河川からの氾濫を想定したものです。


排水溝などからの氾濫や一時的な道路冠水などは考慮していません。

また、状況によっては想定した区域外での浸水や想定以上に深く浸水する場合もあります。

浸水が想定される区域に入ってい

岩見沢市 洪水ハザードマップ

石狩川・幾春別川・夕張川・幌向川・利根別川のはん濫に備えて



昭和56年8月台風12号の集中豪雨による水害の様子

洪水ハザードマップとは・・・

洪水ハザードマップとは、石狩川や幾春別川、幌向川などの河川が大雨により増水し、市内で堤防が決壊した場合の洪水予想に基づいて、浸水する範囲と浸水の深さを計算した地図（浸水想定区域図）に危険箇所や避難所を示した地図です。

このマップを利用して、洪水に対する事前の対策や洪水時の行動、避難所の確認など日頃からの対策に役立てていただきたいと思います。

ご使用に当たっての注意事項 洪水ハザードマップの設定降雨量

浸水想定区域図は、各河川の堤防が決壊した場合に、浸水が想定される範囲や深さを求め、その結果をすべて重ね合わせて、最大の浸水範囲と最大の浸水深を示した地図です。

したがって、実際には図面に示した範囲全てが、同時に浸水することはありません。

また、想定した降雨を超える雨が降ったり、内水はん濫などの場合は、想定していない場所で、浸水する場合があります。

洪水ハザードマップの浸水予想結果の設定降雨量は、石狩川、幾春別川、夕張川、幌向川、利根別川で1.00年から1.50年に1回程度の浸水深を想定しています。3日間の降雨量を平均0.0mmから3.0mmを想定しています。（この降雨量は、各河川全域で降った雨量の平均値を表しています。よって、局地的な大雨によりこれよりも多くなることはあります。）

このハザードマップは、平成21年に作成したマップを「A4冊子タイプ」にしたものです。

- 対象の河川
- 石狩川
 - 幾春別川
 - 夕張川
 - 幌向川
 - 利根別川